

英文学

英語圏文学・文化研究実践演習	研究発表の実践	2	大貫 隆史	6	金曜4限
----------------	---------	---	-------	---	------

科目名：英文学概論

曜日・講時：水曜 3 限

セメスター：3 単位数：2.00 単位

担当教員：大貫 隆史

コード：LB33302, 科目ナンバリング：LHM-LIT203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：近代の悲劇文学入門

2・授業の目的と概要：大きな苦しみや「死」に出くわすという経験は、ごく個人的なもので、他人がそれを理解することはごく難しいことのようにも思えます。しかし、「悲劇文学」とは、そうした苦しみを経験を、どうにかして共有していこうという試みが為されてきたジャンルのことでもあります。本講義では、英語圏における近代の悲劇文学を、ヨーロッパ近代という視点も手放さずに論じていきます。

3. 学習の到達目標：(1)近代演劇及び小説の基本的な形式について理解を深める

(2)コミュニケーションとしての文学という観点への理解を深める

(3)英語の原書を読解できる英語能力を涵養する

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション

2. アーサー・ミラーとヘンリック・イブセン(1)

3. アーサー・ミラーとヘンリック・イブセン(2)

何か邪悪なものや戦っているはずの人間が、その当の邪悪なものに、実のところ取り込まれてしまっていた、という苦しみを経験を、レイモンド・ウィリアムズは、「リベラル悲劇」と命名した。これを、ミラーとイブセンの作品を通して考察し、果たして、「リベラル悲劇」が 2010 年代の現在、アクチュアルな「かたち(form)」たり得ているかどうか考えてゆく。

4. テネシー・ウィリアムズとアウグスト・ストリンドベリ(1)

5. テネシー・ウィリアムズとアウグスト・ストリンドベリ(2)

「家」の中で起きている「私的」な経験のなかにも、「はなはだしい苦しみ」は当然存在している。この見逃されやすい悲劇的经验を、ウィリアムズは「私的悲劇」とカテゴライズした。このアクチュアルな悲劇形式を、二人の劇作家を通して考察する。

6. アントン・チェーホフとサミュエル・ベケット(1)

7. アントン・チェーホフとサミュエル・ベケット(2)

8. まとめと中間テスト

9. ハロルド・ピンター (1)

10. ハロルド・ピンター (2)

11. 英語圏におけるベルトルト・ブレヒト(1)

12. 英語圏におけるベルトルト・ブレヒト(2)

これまで見てきた悲劇のフォームは、そのどれもが、「はなはだしい苦しみ」をどうにかして共有し、かつ、その苦しみをもたらす(実は誤って見定められているのだとしても、その)元凶を変えていこうという意図がそこには込められていた。しかし、ベケット劇では、そうした意図が消えてしまっているようにも見える。この問題を、悲劇そのものの拒絶を意図するブレヒトとあわせて探る。

13. レイモンド・ウィリアムズとジョージ・スタイナー (1)

14. レイモンド・ウィリアムズとジョージ・スタイナー (2)

現代にあって「悲劇」は可能なのか? 甚だしい苦しみや死の経験に、何らかの「かたち(forms)」を与えられる、というのは、一種の欺瞞ではないのか、といったいわば当然の疑問を、ウィリアムズとスタイナーを通して考える。

15. 最終テスト

5. 成績評価方法：発表と授業参加 50%・中間及び最終試験 50%

6. 教科書および参考書：プリントを配布します。

7. 授業時間外学習：指定箇所について予習・復習を行うこと

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：英文学概論

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：4 単位数：2.00 単位

担当教員：大河内 昌

コード：LB43207, 科目ナンバリング：LHM-LIT203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：英詩入門

2・授業の目的と概要：英文学のジャンルの中でも詩は馴染みがうすいかもかもしれません。しかし、詩を読解することによって言葉そのものがもつ不思議さと大きな力を知り、英語という言葉の奥深さに触れることができます。この授業では、ルネサンスから 20 世紀に書かれたイギリスの詩の中から、とても有名で比較的短いものを選んで読解してゆきます。詩はジャンルや約束事が分からないと理解できない作品が多いので、そうした事項を説明しながら詩のテキストを読解してゆきます。詩は読者から近づいて行かないと何も答えてくれませんが、直接詩の原文に触れて積極的に問いかけてゆけば詩はいろいろなことを答えてくれるはずで

3. 学習の到達目標：(1) 英文学史の知識を身につける

- (2) 英語読解力を身につける
- (3) 分析的思考力を身につける

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- (1) Introduction
- (2) Sonnets in the Renaissance: Shakespeare
- (3) Sonnets in the Renaissance: Sidney & Spenser
- (4) Metaphysical Poets: John Donne
- (5) Metaphysical Poets: George Herbert
- (6) Poems in neo-classicism: Pope & Dryden
- (7) Pre-romantics: Collins & Gray + midterm exam.
- (8) Romantic Poets: William Wordsworth
- (9) Romantic Poets: Keats & Shelley
- (10) Victorian Poets
- (11) Emily Dickinson
- (12) Poetry in the Modern Era: T. S. Eliot
- (13) Poetry in the Modern Era: W. B. Yeats & W. H. Auden
- (14) Poetry in the Modern Era: Some American Poets
- (15) Review and term-end exam

5. 成績評価方法：ミニペーパー40%、 期末テスト 60%

6. 教科書および参考書：プリントを配布します

7. 授業時間外学習：予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：英文学基礎講読 I

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：3 単位数：2.00 単位

担当教員：三枝 和彦

コード：LB32506, 科目ナンバリング：LHM-LIT215J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：Somerset Maugham の短編を読む

2・授業の目的と概要：サマセット・モーム (Somerset Maugham, 1874-1965) は現代イギリスの代表的な作家の一人で、小説、演劇、旅行記、評論など様々なジャンルで数多くの面白い作品を残しています。一般に「簡易平明」な文体で書く大衆作家と目されていますが、その文章を正確に読むにはしっかりとした語彙や文法の知識と文章の流れを把握する力が必要です。この授業では、モームの短めの短編を読むことによって、英文読解力と同時に、文学作品について考えたり意見を述べたりする力を育むことを目的とします。

3. 学習の到達目標：(1) 英語の語彙や文法の知識を増やす。
(2) 英語で書かれた小説を正確に読むことができるようになる。
(3) 文学作品について考えたり意見を述べたりすることができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

予定に従って授業ごとにひとつの短編を読みます。

担当者が作品についてレジュメを作成して発表し、それをもとにクラス全体で議論します。

発表の方法とレジュメの作り方は第1回の授業で説明します。

各授業の終わりに、その授業の内容について短いコメントを書きます。

第1回 オリエンテーション

第2回 "The Luncheon"

第3回 "The Ant and Grasshopper"

第4回 "Home"

第5回 "The Escape"

第6回 "The Happy Man"

第7回 "The Poet"

第8回 "The Promise"

第9回 "A String of Beads"

第10回 "The Bum"

第11回 "The Social Snese"

第12回 "The Verger"

第13回 "A Friend in Need"

第14回 "The Consul"

第15回 "The Dream"

5. 成績評価方法：授業への参加と発表 (30%)、コメントペーパーの提出 (30%)、期末レポート (40%)

6. 教科書および参考書：テキストはファイルを提供します。

7. 授業時間外学習：必ず予習をしてください。特に、発表担当者は入念な準備が必要です。
また、復習をして知識の定着を図りましょう。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：英文学基礎講読Ⅱ

曜日・講時：月曜 2 限

semester：4 単位数：2.00 単位

担当教員：酒井 祐輔

コード：LB41204, 科目ナンバリング：LHM-LIT216J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：20 世紀の演劇 (J. B. プリーストリー)

2・授業の目的と概要：20 世紀前半のミドルブラウを担った書き手として近年再評価が進む J. B. プリーストリーの『夜の来訪者』を原書でゆっくりと読み進めていきます。比較的平易な英語で書かれており、謎解きの要素もあるので比較的読みやすいテキストですが、歴史や社会的背景についての理解を要する箇所については適宜補足します。授業では毎回担当者を決めて報告してもらい、その発表を起点にディスカッションを実施します。

3. 学習の到達目標：(1) 演劇、および戯曲テキストについて基本的な理解を得る
(2) 英語の原書を読解できる英語能力を涵養する
(3) 調べたことや自分の意見を説明できるようになる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. An Inspector Calls, Act One (pp.161-64)
3. An Inspector Calls, Act One (pp.165-68)
4. An Inspector Calls, Act One (pp.169-72)
5. An Inspector Calls, Act One (pp.173-76)
6. An Inspector Calls, Act One (pp.177-80)
7. An Inspector Calls, Act One (pp.181-82) and Act Two (pp.183-84)
8. An Inspector Calls, Act Two (pp. 185-88)
9. An Inspector Calls, Act Two (pp. 189-92)
10. An Inspector Calls, Act Two (pp. 193-96)
11. An Inspector Calls, Act Two (pp. 197-200)
12. An Inspector Calls, Act Three (pp. 201-206)
13. An Inspector Calls, Act Three (pp. 207-213)
14. An Inspector Calls, Act Three (pp. 214-220)
15. まとめと試験

5. 成績評価方法：発表と授業参加 50%・試験 50%

6. 教科書および参考書：J. B. Priestley, An Inspector Calls (Penguin Modern Classics, 2001)

7. 授業時間外学習：授業前の予習段階でかならず教材に目を通しておくこと

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：英文学・英語学基礎講読 I

曜日・講時：木曜 3 限

セメスター：3 単位数：2.00 単位

担当教員：TINK JAMES MICHAEL

コード：LB34302, 科目ナンバリング：LHM-LIT217E, 使用言語：英語 (English)

1. **授業題目**：英語で読む現代の怪談 呪われた近代 [Modern Ghost Stories in English: Haunted Modernity]
2. **授業の目的と概要**：このクラスでは、19 世紀から 20 世紀初頭にかけての、幽霊や超自然現象を題材にした短編小説を取り上げる。この時代、モダン・ゴースト・ストーリーは、それまでの超常現象やゴシック小説の形式を適応させ、近代的知識の境界の変化を反映させながら、人気のピークを迎えました。このコースでは、これらの物語の重要な例を読み、その文学的、歴史的背景を考察する： ヴィクトリア朝の大衆文化と民間信仰、科学と宗教、心理学、ジェンダーとセクシュアリティ、国境を越えた執筆、モダニズム小説の発展などである。
3. **学習の到達目標**：このコースでは以下の目標を達成する： (1) 英語で書かれた短編小説のセレクションを読む (2) 19 世紀と 20 世紀の文学の背景と幽霊に関する考え方を理解する (3) 英語の小説を理解し、議論するためのスキルを身につける。
4. **授業の内容・方法と進度予定**：
 - 1: はじめに イギリス怪談の起源
 - 2: イングリッシュ・ゴシック エリザベス・ギヤスケル『老看護婦物語』
 - 3: アメリカン・ゴシック フィッツ＝ジェームズ・オブライエン『何だったのか？』
 - 4: ヴィクトリア朝の超自然： エドワード・ブルワー・ライトン「幽霊と憑き物」(Edward Bulwer Lytton, "The Haunted and the Haunters")
 - 5: センセーション・フィクション メアリー・エリザベス・ブラッドン「冷たい抱擁」
 - 6: 産業界の幽霊： チャールズ・ディケンズ『信号手』
 - 7: アイルランド・ゴシック： シェリダン・ル・ファヌ "Green Tea."
 - 8: スコティッシュ・ゴシック マーガレット・オリファント "The Open Door"
 - 9: 帝国ゴシック： ラドヤード・キップリング "航路の果てに"
 - 10: 日本の幽霊： ラフカディオ・ハーン「ナイトメア・タッチ」
 - 11: 怪奇小説： W.W. ジェイコブス「猿の足」
 - 12: 呪われたイギリス M.R. ジェイムズ『ああ口笛を吹いて、あなたのもとへ行こう』(原題：Oh Whistle, and I'll Come to You My Lad)
 - 13: 呪われたアメリカ アンブローズ・ピアース "The Moonlit Road"
 - 14: モダニズムの幽霊： エリザベス・ボーウェン "The Demon Lover"
 - 15: おわりに
5. **成績評価方法**：小論文 各 20%、中間テスト 20%、期末テスト 20% 期末エッセイ 40
6. **教科書および参考書**：The Penguin Book of Ghost Stories: From Elizabeth Gaskell to Ambrose Bierce, edited by Michael Newton (Penguin, 2010),
7. **授業時間外学習**：英語によるライティング課題 (リアクション・コメント、短答)、リーディングに関する多肢選択式テスト。
8. **実務・実践的授業/Practical business**
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
9. その他：

科目名：英文学・英語学基礎講読Ⅱ

曜日・講時：木曜 3 限

セメスター：4 単位数：2.00 単位

担当教員：TINK JAMES MICHAEL

コード：LB44302, 科目ナンバリング：LHM-LIT218E, 使用言語：英語

1. 授業題目：Shakespeare and Early Modern Comedy: Twelfth Night

2. 授業の目的と概要：『十二夜』(1602年)は、ウィリアム・シェイクスピアによる最も人気のある喜劇のひとつである。男のふりをする若い女性と、それが引き起こす恋愛の混乱を描いている。このコースの目的は、ウィリアム・シェイクスピアの戯曲を紹介するとともに、英文学における喜劇についてより一般的な考え方を考察することです。シェイクスピアとルネサンス期のイギリス戯曲の位置づけ、戯曲における階級とジェンダー(現代用語でいうところの)のテーマ、文学と近世大衆文化における喜劇の源泉など、いくつかの基本的なトピックについて考えるために、学期を通して戯曲を読み、さまざまな映画版を鑑賞する。

3. 学習の到達目標：コース終了時には、以下の目標を達成する：(1)シェイクスピアをテキストとして、また上演されるドラマとして読み、楽しむこと、(2)近世演劇の基礎をより深く理解すること、(3)喜劇の文脈をより深く理解すること。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1: シェイクスピアと喜劇入門
- 2: 十二夜入門
- 3: 十二夜を読む 1.1-2.
- 4: 十二夜 1.3-4 1.5
- 5: 『十二夜』 1.5 2.1-3
- 6: 十二夜 2.1.1-3 2.4-5
- 7: 十二夜 2.4-5 3.1-3.2
- 8: 十二夜 3.1 -3.2 3.3-4.
- 9: 十二夜 3.3-4 4.1-3
- 10: 十二夜 4.1-3
- 11: 十二夜 5.1
- 12: シェイクスピアと近世祝祭喜劇
- 13: シェイクスピアとイギリス喜劇の伝統
- 14: シェイクスピア、喜劇、ジェンダー論
- 15: 十二夜とグローバル・シェイクスピア{最終テスト]

5. 成績評価方法：中間テスト(20%) 学期末テスト(20%) 小論文(20%) 期末エッセイ(40%)

6. 教科書および参考書：William Shakespeare, Twelfth Night, edited by Keir Elam. Arden Shakespeare: Bloomsbury, 2009.

7. 授業時間外学習：短いリアクション・コメントと質問への回答、小論文1本、多肢選択式テスト

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：英語演習

曜日・講時：火曜 4 限

semester：3 単位数：2.00 単位

担当教員：三枝 和彦

コード：LB32406, 科目ナンバリング：LHM-ENG201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：英文読解演習 (1)

2・授業の目的と概要：この授業は、英語がどのように発展してきたかについての本を読むことで、英語の語彙や表現の知識を増やし、英文を正確に読む力を鍛えること、並びに英語という言語について学ぶことを目的としています。

3. 学習の到達目標：(1) 英語の語彙や表現の知識を増やす。

(2) 英文を正確に読むことができるようになる。

(3) 英語という言語に関する知識を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

指定されたテキストを、授業ごとに 10 頁前後読み進めていきます。

事前に担当者を指定し、担当者は該当箇所の要約と、注目した事項や疑問点などを発表します。

それを基にして、授業者が講義や説明を行ったり、受講者が議論をしたりします。

また、授業で学んだことについて短いコメントを書いて提出します。

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 Chapter 1 The origins of Old English (1)

第 3 回 Chapter 1 The origins of Old English (2)

第 4 回 Chapter 2 The Old English dialects (1)

第 5 回 Chapter 2 The Old English dialects (2)

第 6 回 Chapter 3 Early lexical diversity (1)

第 7 回 Chapter 3 Early lexical diversity (2)

第 8 回 Chapter 4 Stylistic variation in Old English (1)

第 9 回 Chapter 4 Stylistic variation in Old English (2)

第 10 回 Chapter 5 The transition to Middle English (1)

第 11 回 Chapter 5 The transition to Middle English (2)

第 12 回 Chapter 6 A trilingual nation (1)

第 13 回 Chapter 6 A trilingual nation (2)

第 14 回 Chapter 7 Lexical invasions (1)

第 15 回 Chapter 7 Lexical invasions (2)

5. 成績評価方法：授業への参加と発表 (60%)、コメントペーパーの提出 (40%)

6. 教科書および参考書：David Crystal, The Stories of English, Penguin, 2004.

7. 授業時間外学習：必ず予習をしてください。特に、発表担当者は入念な準備が必要です。

また、復習をして知識の定着を図りましょう。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：英語演習

曜日・講時：火曜 4 限

semester：4 単位数：2.00 単位

担当教員：三枝 和彦

コード：LB42407, 科目ナンバリング：LHM-ENG201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：英文読解演習 (2)

2・授業の目的と概要：この授業は、前期に引き続き、英語がどのように発展してきたかについての本を読むことで、英語の語彙や表現の知識を増やし、英文を正確に読む力を鍛えること、並びに英語という言語について学ぶことを目的としています。

3. 学習の到達目標：(1) 英語の語彙や表現の知識を増やす。

(2) 英文を正確に読むことができるようになる。

(3) 英語という言語に関する知識を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

指定されたテキストを、授業ごとに 10 頁前後読み進めていきます。

事前に担当者を指定し、担当者は該当箇所の要約と、注目した事項や疑問点などを発表します。

それを基にして、授業者が講義や説明を行ったり、受講者が議論をしたりします。

また、授業で学んだことについて短いコメントを書いて提出します。

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 Chapter 8 Evolving variation (1)

第 3 回 Chapter 8 Evolving variation (2)

第 4 回 Chapter 9 A dialect age (1)

第 5 回 Chapter 9 A dialect age (2)

第 6 回 Chapter 10 The emerging standard (1)

第 7 回 Chapter 10 The emerging standard (2)

第 8 回 Chapter 11 Printing and its consequences (1)

第 9 回 Chapter 11 Printing and its consequences (2)

第 10 回 Chapter 12 Early Modern English preoccupations (1)

第 11 回 Chapter 12 Early Modern English preoccupations (2)

第 12 回 Chapter 13 Linguistic daring (1)

第 13 回 Chapter 13 Linguistic daring (2)

第 14 回 Chapter 14 Dialect fallout (1)

第 15 回 Chapter 14 Dialect fallout (2)

5. 成績評価方法：授業への参加と発表 (60%)、コメントペーパーの提出 (40%)

6. 教科書および参考書：David Crystal, The Stories of English, Penguin, 2004.

7. 授業時間外学習：必ず予習をしてください。特に、発表担当者は入念な準備が必要です。

また、復習をして知識の定着を図りましょう。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：英文学各論

曜日・講時：火曜 2 限

semester：5 単位数：2.00 単位

担当教員：TINK JAMES MICHAEL

コード：LB52203, 科目ナンバリング：LHM-LIT304J, 使用言語：英語

1. 授業題目：英詩サーベイ

2・授業の目的と概要：このコースでは、英語の詩の歴史的サーベイを幅広く行います。毎週、受講生には事前に短い詩を読んでもらい、講義ではその詩の理解の仕方を説明し、その他の文学的・歴史的背景を紹介することで、受講生の理解と楽しみを深めます。英語における詩の長い歴史を、16 世紀から現代までの代表的な詩人や重要なスタイルに圧縮してみる予定です。

3. 学習の到達目標：このコースでは、英語の詩の歴史的サーベイを幅広く行います。毎週、受講生には事前に短い詩を読んでもらい、講義ではその詩の理解の仕方を説明し、その他の文学的・歴史的背景を紹介することで、受講生の理解と楽しみを深めます。英語における詩の長い歴史を、16 世紀から現代までの代表的な詩人や重要なスタイルに圧縮してみる予定です。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1: 「はじめに」 抒情詩とは何か？
- 2: ルネサンスの牧歌：クリストファー・マーロウ「愛に熱狂する羊飼い」
- 3: ルネサンス・ソネット ウィリアム・シェイクスピア『ソネット 130』:「愛人の瞳は太陽に似ていない」
4. 17 世紀の形而上学的詩： ジョージ・ハーバート “愛 (III)”
- 5: 王政復古と 18 世紀の風景： ウィンチェルシー伯爵夫人アン・フィンチ “A Nocturnal Reverie”
- 6: ロマンティック・バラッド： ウィリアム・ワーズワース、”She Dwelt Among the Untrodden Ways”
- 7: ロマンティック・オード ジョン・キーツ “Ode on a Grecian Urn”
- 8: ヴィクトリア朝の劇的独白： ロバート・ブラウニング “My Last Duchess”
- 9: モダニズム T. S. エリオット “前奏曲”
- 10: 戦間期の詩と政治： W. H. オーデン “W. B. イェイツを偲んで”
- 11: 戦後の告白詩： シルヴィア・プラス “Daddy”
- 12: 現代の環境詩 「エリザベス・ビショップ “The Fish”
- 13: 戦後イギリスのポピュラーな抒情詩 フィリップ・ラーキン “The Whitsun Weddings”
- 14: 20 世紀の詩：アリス・オズワルド “Dunt: 干上がった川のための詩”
- 15: 結論と最終テスト

5. 成績評価方法：講義後のリアクション・コメント 50% 課題文 25% コース最終テスト 25

6. 教科書および参考書：このクラスには教科書はありません。詩はオンラインで無料で入手できます。

7. 授業時間外学習：読解力と聴解力、文学的批評知識、異文化理解力を向上させる。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practical business
授業は英語の詩について英語で行われます。毎週、教材の一部を日本語に翻訳します。

9. その他：

科目名：英文学各論

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：TINK JAMES MICHAEL

コード：LB62204, **科目ナンバリング：**LHM-LIT304J, **使用言語：**英語

1. 授業題目：英語 演劇史 演劇と映画

2・授業の目的と概要：この講義では、シェイクスピア以降、現代までの英語劇の主要な作品とスタイルを紹介する。20 世紀以降、メディア・テクノロジーの発展により、ドラマはかつてないほど一般的なものとなりました。このコースでは、ドラマの様式を理解する方法、戯曲を分析する方法、英米文学の主要な歴史的時代をより深く理解する方法を学ぶ。授業では、悲劇、喜劇、シェイクスピア劇、メロドラマ、近代リアリズムと反リアリズム、戦後のイギリスとアメリカの演劇と映画、最近のドラマ研究の動向などを取り上げる。主に英語で上演されるドラマを取り上げますが、他の世界文学や翻案作品にも言及します。

3. 学習の到達目標：1: 英語劇の主な歴史的形式を認識する、2: 国際ドラマを通して異文化理解を深める、3: ドラマを通してメディアとテクノロジーの役割をより深く理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1: はじめに ドラマとは何か？
- 2: 喜劇
- 3: 悲劇
- 4: シェイクスピアと近世劇
- 5: 王政復古期と 18 世紀の戯曲
- 6: メロドラマ
- 7: 近代劇とリアリズム
- 8: 20 世紀の問題劇
- 9: ウェルメイド・プレイ
- 10: 社会的リアリズム
- 11: 反リアリズム
- 12: 政治劇
- 13: 大衆演劇
- 14: 21 世紀の演劇
- 15: 結論 なぜドラマが必要なのか？

5. 成績評価方法：毎週のリアクション・コメント 50%、期末テスト 25%、小論文 25%

6. 教科書および参考書：教科書なし

7. 授業時間外学習：聴解、ドラマ鑑賞、英作文、ドラマ批評の理解

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：英語文化論各論

曜日・講時：集中講義

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：鈴木 英明

コード：LB98810, 科目ナンバリング：LHM-LIT305J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：近代批評と実践

2・授業の目的と概要：Oscar Wilde、Paul de Man、Shoshana Felman らの批評テキストを参照することによって、近代の、美学と区別された批評という危いジャンルを再考します。Kant によれば、人間の認識は、感性が捉えた感覚的データを悟性・理性が論理的に秩序づけることによって可能となります。感性は、あくまでも悟性・理性の統御下にあるわけです。近代批評は、この従属的な感性の働きのなかに、悟性・理性による認識の限界を露呈させる契機を見いだすことによって新たな意味形成をめざす試みであるともいえるでしょう。こうした近代批評は、近代が理性中心主義の時代である以上、近代批判という意味を帯びることにもなります。こうした批評的試みは、一回一回が賭けにも似た実践的・実験的な行為であり、失敗する可能性をつねにはらむ危いものです。またそれは、批評行為がなされる状況とのかかわりから、政治性を含意することもありえます。本講義は、Kant の批判哲学、John L. Austin の言語行為論、Jacques Lacan の精神分析理論などを踏まえつつ近代批評の特性を理解することによって、文学研究を真に実践的な試みとして位置づけることをめざします。

3. 学習の到達目標：1. 近代批評に関して新たな視点を獲得する。

2. 行為遂行性＝実践性という観点から文学研究を考えることができる。

3. 近代批評に関わる哲学や精神分析理論について基本的な知識を得る。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入
2. 批評と行為 1 (Wilde)
3. 批評と行為 2 (Wilde)
4. 批評と行為 3 (Wilde)
5. 批評と行為 4 (Wilde)
6. 精神分析とレトリック (Felman)
7. 精神分析とフェミニズム (Felman)
8. 語る身体のスキャンダル 1 (Felman)
9. 語る身体のスキャンダル 2 (Felman)
10. 「ダヴォス討論」と冷戦期米国の批評 (de Man)
11. Martin Heidegger と批評 (de Man)
12. Kant の唯物論 (de Man)
13. アイロニーと批評 (de Man)
14. 総括的議論
15. 筆記試験

5. 成績評価方法：リアクション・ペーパーによる平常点 (40%) 期末試験 (60%)

6. 教科書および参考書：教材は各回の授業で担当者が PowerPoint で提示する。

7. 授業時間外学習：期末試験に備え、毎回の講義内容の復習を行うこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：比較文化論各論

曜日・講時：月曜3限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：TINK JAMES MICHAEL

コード：LB51303, 科目ナンバリング：LHM-LIT338E, 使用言語：英語

1. 授業題目：異文化研究のキーワード（講義コース）

2・授業の目的と概要：本講義は、人文科学におけるカルチュラル・スタディーズを横断する研究において重要な英語のキーワードを概観することで、異文化間研究のための基本的な概念やアプローチを紹介することを目的とする。「カルチュラル・スタディーズ」とは、文学部における知の形態や創造性の研究、日本研究とグローバル・スタディーズとの融合など、幅広いアプローチを意味する。毎週、関連する概念や対象、トピックを表す特定のキーワードを取り上げ、その意味合いや学部での研究への応用について考える。受講生は毎週、事前に何らかの短いテキスト（通常はコピーやオンライン資料、場合によっては文章だけでなく映像資料も）を読むことが求められ、授業ではそれを講義やグループディスカッションで説明する。トピックには、文化や文化史の考え方、芸術、メディア（特に映画）へのアプローチなどが含まれる

3. 学習の到達目標：1: 人文科学に役立つ英語の語彙を調査する。

- 2: 様々な短文や資料を英語で読む。
- 3: 英語の理解力とコミュニケーション能力を高める。
- 4: 授業内容やクラス活動を通して、異文化理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1: 文化入門： キーワードとは何か？
- 2: 文化と価値
- 3: 歴史主義
- 4: 祝祭とカーニバル
- 5: 近代とモダニズム
- 6: ポストモダニズム
- 7: 異文化間主義
- 8: 感情と情緒
- 9: 物語、小説、文学
- 10: 映画と国家 イギリス
- 11: 映画と国家 日本
- 12: ふるさととノスタルジア
- 13: 幽霊と怪奇
- 14: 日常性
- 15: 最終試験

5. 成績評価方法：授業後、短いリアクションペーパーをグーグルクラスルームに提出 40%、学期末に最終タームペーパー1回 30%、期末テスト 30%

6. 教科書および参考書：教科書なし
オンラインまたはコピーで提供される資料。

7. 授業時間外学習：聴解力、読解力、視覚的コミュニケーション能力、口頭コミュニケーション能力の向上。
異文化理解

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：英文学講読

曜日・講時：月曜 2 限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：TINK JAMES MICHAEL

コード：LB61204, 科目ナンバリング：LHM-LIT319E, 使用言語：

1. 授業題目：文学と AI：カズオ・イシグロ『クララと太陽』。

2・授業の目的と概要：21 世紀の文学研究は、コンピュータ技術と人工知能 (AI) がこの学問分野のあり方に与える影響と明確に折り合いをつけないといけない。まず第一に、AI によって、文学批評の一環としてテキストを新たな方法で読み、研究する方法 (膨大な数のテキストを「遠隔読書」する学派など) がどのように変わる可能性があるのか。第二に、AI は、チャットボットの例のように、誰もがあらゆる種類の文章を作ったり書いたりできる方法をどのように変える可能性があるのか。第三に、作家やその他の創造的な人物は、芸術作品においてこのような非人間的知性のアイデアをどのように表現したり想像したりするのだろうか？本講座では、まず「デジタル・ヒューマニティーズ」の説明と、AI を活用した学問の主要な発展について説明することで、これらすべての問題に取り組むことを試みる。その後、日英の作家、カズオ・イシグロが最近発表した小説『クララと太陽』(2021 年) を読みます。この小説は、投機的な近未来における AI の存在を想像した SF の一種です。コース終了時には、テクノロジーと文学研究がもたらさう結果についての議論や不安をよりよく理解できるようになっているはずである。

3. 学習の到達目標：1：最近のテクノロジーの発展が文学研究をどのように変化させるかをより理解する。

2：英語で書かれた小説を読み、その形式的・時事的意義を理解する。

3：英語の理解力とライティング能力の向上

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1: デジタル・ヒューマニティーズ入門

2: 遠隔読書

3: AI と創作

4: カズオ・イシグロ『クララと太陽』 pp. 1-26

5: クララ pp.

6: クララ pp.

7: クララ pp.

8: クララ pp.

9: クララ 174-200 ページ

10: クララ pp.

11: クララ pp. 240-71

12: クララ pp. 271-292

13: クララ 295-315 ページ

14: クララ pp: 319-340

15. 結論 チャット GPT

5. 成績評価方法：リアクション・コメント 30% 期末試験 30% 小論文 40

6. 教科書および参考書：Kazuo Ishiguro Klara and the Sun (Faber 2021)

クララとお日さま KLARA AND THE SUN (ハヤカワ epi 文庫) / カズオ・イシグロ/著 土屋政雄/訳 (2021)

7. 授業時間外学習：読解力の向上、英作文の上達 現代文学の知識を深める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：英文学演習 I

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：大貫 隆史

コード：LB53408, 科目ナンバリング：LHM-LIT320J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：Thomas Hardy, Jude the Obscure (1)

2・授業の目的と概要：トマス・ハーディ『日陰者ジュード』の前半を読んでいきます。ハーディの小説は、近代あるいは産業革命という衝撃的な経験のなか、知識を持つとする個人が、どう共同体と関わり合えるのか、という重大な問題に正面から取り組んでいるものです。その意味では、わたしたちにとってごく身近な問題を扱った小説でもあります。本演習では、毎回担当を決めて、該当箇所の日本語翻訳とコメントを提供してもらいます。

3. 学習の到達目標：(1) 小説の基本的な形式について理解を深める
(2) コミュニケーションとしての文学という観点への理解を深める
(3) 英語の原書を読解できる英語能力を涵養する

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODクシヨN
2. Jude the Obscure (1)
3. Jude the Obscure (2)
4. Jude the Obscure (3)
5. Jude the Obscure (4)
6. Jude the Obscure (5)
7. Jude the Obscure (6)
8. まとめ (1)
9. Jude the Obscure (7)
10. Jude the Obscure (8)
11. Jude the Obscure (9)
12. Jude the Obscure (10)
13. Jude the Obscure (11)
14. ディスカッション
15. まとめ (2)

5. 成績評価方法：発表と授業参加 50%・レポートないしは試験 50%

6. 教科書および参考書：Thomas Hardy, Jude the Obscure (Penguin Classics)

ISBN: 9780140435382

出版社、ISBN に注意して入手してください

7. 授業時間外学習：予習箇所を事前に必ず学習してくること

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：英文学演習Ⅱ

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：大貫 隆史

コード：LB63404, 科目ナンバリング：LHM-LIT321J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：Thomas Hardy, Jude the Obscure (2)

2・授業の目的と概要：トマス・ハーディ『日陰者ジュード』の後半を読んでいきます。ハーディの小説は、近代あるいは産業革命という衝撃的な経験のなか、知識を持つとする個人が、どう共同体と関わり合えるのか、という重大な問題に正面から取り組んでいるものです。その意味では、わたしたちにとってごく身近な問題を扱った小説でもあります。本演習では、毎回担当者を決めて、該当箇所の日本語翻訳とコメントを提供してもらいます。

3. 学習の到達目標：(1) 小説の基本的な形式について理解を深める
(2) コミュニケーションとしての文学という観点への理解を深める
(3) 英語の原書を読解できる英語能力を涵養する

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODクシヨN
2. Jude the Obscure (12)
3. Jude the Obscure (13)
4. Jude the Obscure (14)
5. Jude the Obscure (15)
6. Jude the Obscure (16)
7. Jude the Obscure (17)
8. まとめ (1)
9. Jude the Obscure (18)
10. Jude the Obscure (19)
11. Jude the Obscure (20)
12. Jude the Obscure (21)
13. Jude the Obscure (22)
14. ディスカッション
15. まとめ (2)

5. 成績評価方法：発表と授業参加 50%・レポートないしは試験 50%

6. 教科書および参考書：Thomas Hardy, Jude the Obscure (Penguin Classics)

ISBN: 9780140435382

出版社、ISBN に注意して入手してください

7. 授業時間外学習：予習箇所を事前に必ず学習してくること

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：英文学演習Ⅲ

曜日・講時：月曜 2 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：TINK JAMES MICHAEL

コード：LB51205, 科目ナンバリング：LHM-LIT322E, 使用言語：英語

1. 授業題目：ヴィクトリアン・ゴシック、ブラム・ストーカー、ドラキュラ

2・授業の目的と概要：1897 年に出版されて以来、ブラム・ストーカーの『ドラキュラ』は、19 世紀イギリスの小説の中で最も人気があり、影響力のある作品のひとつとなった。吸血鬼ドラキュラ伯爵という象徴的な人物を大衆文化に広めただけでなく、この小説自体も、20 世紀初頭のイギリスおよびヨーロッパ文化のさまざまなテーマや不安を探求する魅力的な作品です。このコースでは、この小説の全編を分割して読み（1 週間に 30 ページ程度）、関連するいくつかのテーマを検討します：ゴシック文学の伝統、吸血鬼、超自然的なものの考え方、テクノロジーと科学的近代の影響、「新しい女性」というテーマを含むヴィクトリア朝後期のセクシュアリティとジェンダーに関する考え方、「東洋」への恐怖を含むイギリス文化における国際関係、植民地主義、人種に関する考え方。また、この小説が現代文化におけるホラー小説の思想に残した遺産についても考察する。

3. 学習の到達目標：受講生は毎週、小説の一部を事前に読み、クラスではグループワークを通して小説について話し合う。学習成果は以下の通り：(1) 小説を原文で読む、(2) ドラキュラと 19 世紀後半のイギリス文化の歴史的・知的背景をより深く理解する、(3) 近代における小説と文学の理論をより深く理解する、(4) 授業を通してディスカッションや英作文のスキルを向上させる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1: ドラキュラ入門
- 2: ドラキュラを読む 第 1-2 章
- 3: 第 3-4 章
- 4: 第 5~7 章
- 5: 第 8~10 章
- 6: 第 11-12 章
- 7: 13-15 章【中間テスト
- 8: 第 16-18 章
- 9: 19-21 章
- 10: 第 22-24 章
- 11: 第 25~28 章
- 12: ドラキュラとホラーの力
- 13: ドラキュラとジェンダー論
- 14: ドラキュラの余生 世界の映画
- 15: おわりに

5. 成績評価方法：20% 中間小テスト 20% 期末試験 20% 小論文 20% 40 期末小論文

6. 教科書および参考書：Bram Stoker. Dracula. Edited by Maurice Hindle. (Penguin Classics, 2003)

7. 授業時間外学習：受講生は短いオンライン・ライティング課題、コース終了時のエッセイ 1 本、小説に関する小テストをこなさなければならない。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

受講生は毎週、授業前に小説を 30 ページまで読むことになっており、授業では発表者によるプレゼンテーションとグループ・ディスカッションが行われる

9. その他：

多くのオンライン版や翻訳があるので、授業外でも参照できるが、授業では英文を参照する。

科目名：英語圏文学・文化研究実践演習

曜日・講時：金曜 4 限

semester：6 単位数：2.00 単位

担当教員：大貫 隆史

コード：LB65408, **科目ナンバリング：**LHM-LIT343J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：研究発表の実践

2・授業の目的と概要：この演習では、英語圏の文学や文化的作品について、それをめぐるコミュニケーションの実相について、先行研究を踏まえつつ発表を行ってもらふことを目的とします。

- 3. 学習の到達目標：**(1) 学術的な発表の基本的な形式について理解を深める
(2) コミュニケーションとしての文学という観点への理解を深める
(3) 英語の原書を読解できる英語能力を涵養する

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Introduction
2. Presentations
3. Presentations
4. Presentations
5. Presentations
6. Presentations
7. Presentations
8. Presentations
9. Presentations
10. Presentations
11. Presentations
12. Presentations
13. Presentations
14. Presentations
15. Discussion

5. 成績評価方法：発表、参加度合い、レポートを総合的に判断して評価する。

6. 教科書および参考書：プリントなどを配布します

7. 授業時間外学習：演習内で取り上げられた作品や先行研究などを、読んだり調べたりすること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

本演習は、原則として、英文学専修所属の学生のみ履修できます。ただし、本演習に関連するトピックで論文を書く場合などは、履修を認める場合があります。